

No.327
1998年
10月

OR学会だより

社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル3階
電話(03)3815-3351代 Fax(03)3815-3352

●日本OR学会各賞候補ご推薦のお願い

本学会では、毎年OR学会文献賞、実施賞、普及賞、事例研究奨励賞、学生論文賞を贈り、それぞれの分野で顕著な仕事をされた個人や企業を表彰しております。今年度の受賞候補者のご推薦を募ります。締切は学生論文賞・事例研究奨励賞ソフトウェア部門を除き、平成11年1月31日といたしますので、それに間に合うよう、学会所定の用紙をお早めに事務局宛にご請求ください。なお、5賞の概要は次のとおりです。

〔文献賞〕大西記念文献賞に引き続いて設けられた本会で最も歴史のある賞です。次の条件を満たす論文の著者をご推薦ください。

- 1) 論文は独創性と将来性に富み、ORの発展に寄与するものであること。
- 2) 論文はOR学会発行の論文誌またはこれに相当する権威ある雑誌、論文集にその年(10年の1月1日より12月末日までに発行されたものをいう)に発表された論文であること。
- 3) 被推薦者はOR学会員で、年齢は原則として40歳以下であること。

なお、論文の著者が複数以上あるときには、主としてその論文の作成にあたった者をもって代表とし、被推薦者とします。

〔実施賞〕ORの実施を強く推薦してきた個人、グループまたは企業等に贈られます。従来は、東亜燃料工業(株)、(株)日立製作所、中部電力(株)、兵庫県、中国電力(株)、(株)電力中央研究所、住友金属工業(株)、三菱石油(株)、川崎製鉄(株)、(株)東芝、日本電気(株)、田辺製薬(株)、(株)日通総合研究所、(株)構造計画研究所、松下電工(株)、(株)安川電機、東京ガス(株)、NTT研究開発本部、秩父小野田(株)、富士通(株)ソフトウェア事業本部ミドルウェア事業部等、企業が主な受賞者でした。

〔普及賞〕ORの普及に大きな貢献をした個人、グループまたは企業等に贈られます。従来は、森村英典、後藤正夫、森口繁一、横山 保、河田龍夫、小林宏治、国澤清典、西野吉次、三根 久、松田武彦、近藤次郎、西田俊夫、梅沢 豊、齋藤嘉博、唐津 一、藤森謙一、三上 操、小田部 斎、原野秀永、千住鎮雄、依田浩、刀根 薫、松富武雄、児玉正憲、長谷川利治、御

園生善尚、矢部 眞、本告光男、渡辺 浩、伊理正夫、高橋馨郎の各氏および新日本製鐵(株)、(株)富士銀行、日科技連グループ、日本IBM(株)、NTT、旧国鉄の各企業が受賞者でした。

〔事例研究奨励賞〕すぐれた事例研究に対して贈られます。個人に限らず、グループや企業も対象になります。ただし、その研究は、学会誌等、本学会において発表されたものに限りです。なお、ソフトウェア部門は11月30日締切です。

〔学生論文賞〕学生による優れたORに関する研究に対して贈られるものですが、米春提出される学部卒業論文、または大学院の修士論文が対象となります。応募締切は平成11年3月31日といたしますが、詳しい募集要領は、OR誌2月号に掲載します。(表彰委員会)

●日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞(ソフトウェア部門)第14回候補ご推薦のお願い

いまやORの研究・教育・実施においてはソフトウェアが不可欠のツールとなっています。しかも、年々多数の新しいすぐれたソフトウェアが作られています。これらは、はたして広く有効に使われて、世の役に立っているのでしょうか。

本学会員の声として、ORに関連するソフトウェアを紹介し、評価し、会員に知らせてほしい、という要望がしばしば寄せられております。

学会ではこのような情勢をふまえ、1985年度から優秀なソフトウェアの顕彰を実施いたしております。つきましては今年度も下記の要領で、広く学会員から募集することになりましたので、奮ってご応募ください。

なお、本賞を、事例研究奨励賞の中のソフトウェア部門といたしましたのは、過去の事例研究奨励賞においてコンピュータ・システムの開発に対する授賞を行った実績も参考として決定したものであります。

〈募集要領〉

1. 賞の名称：日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞(ソフトウェア部門)
2. 選考の対象：ORの教育・実務において広くOR学会員に役立つもので、次のような対象を想定してお

ります。

(1)教育用ソフトウェア (大学・企業・その他教育機関においてOR教育研修用のソフトウェア)

(2)OR技術の先端的ソフトウェア

3. 応募資格: 本学会の会員 (個人に限らずグループや企業も対象となります)

4. 応募手続: (1)提出書類

①正会員による推薦状 1部

推薦状は学会所定の用紙とします。

②ソフトウェア機能説明書 (A4判3枚以内) 5部
機能説明書は学会所定の用紙とします。

③その他参考資料

Input/Outputの例, 解説書等の参考資料があれば, 各1部添付してください。ただし, 提出の義務はありません。

(2)提出先: 日本OR学会表彰委員会

(3)応募締切: 平成10年11月30日(月) 必着

5. 表彰: 受賞者には, OR学会総会その他適当な機会に賞牌を授与するとともに, 受賞ソフトウェアの要約をOR誌に掲載して表彰する。

6. その他: (1)応募するソフトウェアは, 広くOR学会員に役立つことが必要な条件であるため, 一般学会員からの利用の要請を受けたときは, その便に応じることとしてください。ただし, 学会は, 利用について仲介の労をとることはいたしませんから, 当事者間で直接話し合ってください。

(2)受賞にもれたソフトウェアについても, 適当なものについては, 主な機能等の紹介をOR誌に行うこととします。

●第40回シンポジウム (東京)

日時: 10月14日(水) 10:00~18:30

場所: 日本大学会館 〒102 千代田区九段南4-8-24 (市ヶ谷駅から徒歩3分)

テーマ: 「AHPの理論と実際」

実行委員長: 木下栄蔵 (名城大学)

プログラム概要:

〔司会〕大沢慶吉 (日本大学)

1. 10:00 開会挨拶

2. 10:10~14:30 AHP理論の発展

AHPの発展経緯と支配型AHP

木下栄蔵 (名城大学)

Saaty型 Supermatrix法と木下・中西型一斉法の

比較

高橋磐郎 (日本大学)

意思決定ストレスと集団意思決定ストレスの提案

中西昌武 (名古屋経済大学)

12:00~13:00 昼休み

集団の合意を得るためのグループAHP法

山田善靖 (東京理科大学)

整合性の評価とその改善に関する考察

西澤一友 (日本大学)

情報エントロピーからみたAHPとロジットモデルの関係

尾崎都司正 (㈱関西新技術研究所)

3. 14:30~15:30 パネルディスカッション

AHPの最近の発展経緯とその適用

コーディネーター 木下栄蔵 (名城大学)

〔司会〕吉川耕司 (名城大学)

4. 15:40~18:30 AHPの実際への適用

グループAHPの人事評価への適用

八巻直一 (静岡大学)

非加法的ウェイトを用いたAHPの土木計画における適用

高野伸栄 (北海道大学)

AHPと擬制的市場法(CVM)の組合せによる経済的価値の評価—リゾート開発による環境悪化を

事例として—

松本昌二 (長岡技術科学大学)

絶対評価法によるリニューアルのコストベネフィット評価

宮坂房千加 (山武ビルシステム㈱)

阪神高速道路における自動点検監視システムの評価

桃澤宗夫 (阪神高速道路公団)

AHPによる県民意識調査と県の将来像の評価

野倉 淳 ((財)とちぎ総合研究機構)

AHPによる交通システムの評価 水間 毅(運輸省)

九州国際空港構想の候補地選定—AHPによる候補地の総合評価—

轟 朝幸 (高知工科大学)

参加費: 正・賛助会員5,000円, 学生会員1,000円, 非

会員8,000円 (協賛学会員は正会員に同じ) 当日受付

にてお支払いください。

問合せ先: 日本オペレーションズ・リサーチ学会事務局

Tel. 03(3815)3351 Fax. 03(3815)3352

(協賛: 土木学会)

●平成10年度秋季研究発表会

日程: 10月15日(木)~16日(金)

場所: 日本大学会館 〒102 千代田区九段南4-8-24 (市ヶ谷駅から徒歩3分)

特別テーマ: 「社会評価のOR」

自分の働きが正しく評価されているという意識は, その人にやる気を起こさせるものです。古い話ですが,

源頼朝の軍が強かったのは、彼が、戦う軍勢に対して、これと同じ位の人数の、兵站と評価の役割をもつ人員を配置して、誰がどんな働きをしたかを克明に調査して、働きに応じた賞を与えたため、彼の兵士たちの戦う意欲が挙がったからだとのこと。

現在は、どんな組織でも、年功序列ではなく、能力主義が採用され、人事システムでも個人の能力評価は重要な問題となっていますし、また支店や部局の組織としての業績評価など、評価のORの問題は極めて多いと思います。ふるってご参加、ご発表をお願いしたいと思います。

実行委員長：高橋馨郎（日本大学生産工学部）

実行副委員長：大沢慶吉（日本大学生産工学部）

参加費：正・賛助会員6,000円、学生会員2,000円、非会員6,000円

登壇料：非会員のみ2,000円/件(本学会の許可が必要)

特別講演：一般公開・入場無料

10月15日(木) 13:10～

「今、経営者として考えること」

樋口廣太郎（アサヒビール(株)会長）

10月16日(金) 13:10～

「教育と危機管理能力」

大谷利勝（日本大学生産工学部長）

懇親会：10月15日(木) 午後6時より 参加費6,000円

見学会：10月17日(土) 午前10時～午後2時

見学先：臨海副都心「お台場」フジテレビ本社、その他

参加費：3,000円程度（昼食代、その他）

定員：30人程度

問合せ先：〒275-0006 習志野市泉町1-2-1

日本大学生産工学部数理工学科 大沢慶吉

Tel. 0474(74)2658

●日本OR学会「企業事例交流会」(第2回)

企業事例交流会は、企業におけるOR実施の事例を、問題の発生からさまざまな苦労を経て、やがて解決に至る苦労話を提供していただく場です。発表の内容については、あらかじめ大学の研究者に検討してもらい、評論をいただくとともに、研究にとっての刺激をいかに受けたかを報告していただきます。さらにパネル討論の場で、企業におけるORの実践と研究者との交流のあり方や、現場からの研究への刺激のあり方について考えます。学会員以外からも多数のご参加を希望します。

日時：10月14日(水) 13:00～18:00

場所：日本大学会館 千代田区九段南4-8-24

(市ヶ谷駅から徒歩3分)

プログラム：

1. 13:05～13:50 「生産計画システムの計画係数用原油DBの利用展開」

三菱石油(株)製造企画部：高崎義裕

2. 14:00～14:45 「VLSIマルチスキャンチェーン最適化アルゴリズム」

日本電気(株) C&Cメディア研究所：小林 進

3. 14:55～15:40 「転炉ボトム部耐火物の熱応力解析モデルについて」

川鉄情報システム(株)千葉事業所：白石 健

休憩

4. 16:00～16:20 評論1：京都産業大学：井上一郎

5. 16:20～16:40 評論2：静岡大学：徳山博于

6. 16:50～18:00 パネル討論会

「企業における問題解決に大学はいかに関われるか」

参加費：6,000円(ただし、交流会登録者は研究発表会参加資格あり)

問合せ先：

〒432-8561 浜松市城北3-5-1 静岡大学 工学部 システム工学科 八巻直一

Tel./Fax.053(478)1214

E-mail：yamaki@sys.eng.shizuoka.ac.jp

●テクノOR講座のご案内

ORという言葉は知っているが、なにか難しくて自分には関係ない、と思っている方へ、ここに耳寄りな話を提供しましょう。Excelなどを日常使っている方々には、今なら以前難しかったことが手軽にできるかも、と感ずることがありませんか？人間の知恵、人間の判断力を素材にして、今なら自分の好きなように問題を料理できるかもしれない、という淡い期待はありませんか？

企業戦略は、ますます知恵をもってなさねばならない時代となりました。知恵をもってするという意味では、これまでオペレーションズ・リサーチ(OR)はつぎつぎに大きな成果を挙げてきておりますが、それらの多くは大規模なソフトウェアによる専門家の仕事と思われてきました。しかし、最近ではかなり難しい問題でも、パソコン上で気軽に解くことが可能になっております。

テクノOR講座は、自分自身の問題を目の前にして

いる現場の方々に、パソコンによるORを実感していただくために企画されました。ここで扱う手法は、現場で実際の問題にも十分実用的な武器となるでしょう。ORを活用するのは、今や「あなた自身」です。さあ、我々と一緒にやってみましょう。新しい世界が開けますよ！

日時：10月17日(土) 10:00~17:30

場所：青山学院大学情報教室1 (渋谷キャンパス11号館1階)

主催：(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会

協賛：日本インダストリアル・エンジニアリング協会

参加費：無料

プログラム：

1. 10:00~10:20 インTRODクシヨN
2. 10:20~12:00 「DEA - Solver on Excel Macro」

刀根 薫(政策研究大学院大学・日本OR学会前会長)

3. 13:00~14:30 「コンジョイント分析と製品ライン開発」 高森 寛(青山学院大学)

4. 14:40~16:00 「AHPと意思決定」 八巻直一(静岡大学)

5. 16:10~17:30 「Excel上でOR活用のコツ」 権藤 元(前近畿大学)

連絡先：静岡大学工学部システム工学科 八巻直一

Tel./Fax.053(478)1214

E-mail:yamaki@sys.eng.shizuoka.ac.jp

●第41回シンポジウム(大阪)

日時：平成11年3月22日(月)

場所：大阪国際大学(大阪府枚方市杉3-50-1)

テーマ：「確率モデルのフロンティア」

実行委員長：田畑吉雄(大阪大学)

●平成11年度春季研究発表会

日程：平成11年3月23日(火)~24日(水) 研究発表会
3月25日(木) 見学会

場所：大阪国際大学(大阪府枚方市杉3-50-1)

特別テーマ：「ORのグローカリズム」

グローカリズム(Globalism)はGlobalで発想し、localで活動する意味で、市民運動家とか啓蒙的な首長により使われ始めた和製造語

実行委員長：西田俊夫(大阪国際大学)

実行副委員長：田畑吉雄(大阪大学)、田村坦之(大阪大学)、寺岡義伸(大阪府立大学)

発表申込締切：平成10年12月4日(金) 消印有効

(宛先)〒599-8531 堺市学園町1-1 大阪府立大学 総合科学部 数理・情報科学科 寺岡義伸
Tel.0722(54)9670 Fax.0722(54)9930

・研究発表は申込書およびアブストラクトの提出をもって申込み受付とします。

申込書等請求先：〒113-0032 文京区弥生2-4-16 学生センタービル3階 日本オペレーションズ・リサーチ学会事務局

Tel.03(3815)3351 Fax.03(3815)3352

問合せ先：寺岡義伸(上記参照)

なお今回は例年より1カ月以上早く申込締切を行いますのでご注意ください。

●平成11年度秋季研究発表会

日程：平成11年9月20日(月)~21日(火) 研究発表会
9月22日(水) 見学会

場所：成蹊大学(武蔵野市吉祥寺北町3-3-1)

実行委員長：上田 徹(成蹊大学)

●研究部会・グループ開催案内

〔COM・SCM・スケジューリング〕

・第6回

日時：10月22日(木) 18:00~20:00

場所：青山学院大学 青山キャンパス総研ビル

テーマと講師：「Virtual Supply Chain Management: A test-bed system for Enterprise Integration.」 梅田茂樹(武蔵大学)

問合せ先：東京理科大学 西岡靖之

Tel.0471(24)1501(内線3818) Fax.0471(22)4566

E-mail:nishioka@ia.noda.sut.ac.jp

●会合案内

〔第182回新宿OR研究会〕

日時：10月20日(火) 12:00~13:30

場所：東天紅会議室(新宿センタービル53F)

テーマ：安全問題とヒューマンファクター

講師：白砂孝夫氏(㈱電力計算センター 代表取締役社長)

参加費：3,000円

問合せ先：日本OR学会事務局

〔第183回新宿OR研究会〕

日時：11月17日(火) 12:00~13:30

場所：東天紅会議室(新宿センタービル53F)